凡生氏 日本國盡 北陸道 五

特31・441

共八本

大日本教育會書籍館
二一函
二架
六六號
八冊

特31
441
東京図書館蔵

北陸道之図

特31
441

北陸道之図

瓜生氏日本國盡巻五

北陸道は七箇國。南東まで東山道。山又山を脊に負ひ。西と北とは北海の。望みはてなき浪の面。山陰道より引續き。

東京館蔵

艮へのけ細長く延びたる
中於
背一ツ若狭の國として西の
方丹後に隣る丹波地を
南に受けて東は近江と
越の前の國抔に三方は

山おほく乾は一面濱つゞ
き入込む浦は二つ三つ
中に名あるは若狭浦
浦に臨る小濱は城あり
内外一郡合一國三郡人
口凡大凡七万八千余氣候

陰氣あり濕おほく。然れど
風俗も篤実なり。土地ハ
名を得し産物ハ。塗物・石
灰・鰈・小鯛さまざま。拔れ管轄ハ
全國を併て。隣國越前の
敦賀縣の支配なり

二り越前ハ東南ハ。近江
美濃飛騨の地を擁し。艮の
方加賀の國西ハ北海なり。
高く。四方山にて包み込て。
只乾のみ一方ハわづかに
開く土地形勢。平原広く

地味厚く山高く深く流
水もよく國中を通じたり。
其は西南乃濱手なり。
山の間より敦賀郡。海灣
長く入こて小前舟は碇
泊場。敦賀港其にぎわし

く仲哀帝の其所なりし。
行幸のあまりし行宮を
神威尊き氣比の宮。茲に
建てる鉄廠あり。敦賀縣
少く。隣國は若狭一圓通
此の。今立南條。敦賀なる

三つの郡を支配せる山。名ある越知山日永岳。加賀に跨がる白山。是また両國の境なり。川は白鬼女足羽川九頭竜川の三つの河。一つに合て海に入る其の川口は三國なり。これは港より巽の方。舟にて川を溯り。足羽の川浅中より取る。平けし市街は福井にて。當國の残りなき五郡をぞ。支配の足羽縣廳を立設けある所

なる九頭龍川に早瀬川。
掛たる橋ハ舟のたくしさて
名所ハに夕月夜。露ぬ外
風ふきまる味眞野や。粟田
部に継体の帝のい
まさし御位り。即せ玉ハね

越北以前。宮居のありし
所なりき一國中の人口ハ
三十五萬四千余氣候ハ
寒く雪深く人氣ハ軽率
邪智多くさすれど敦賀の
一郡ハ風俗言語もしこと

名高て。近江の国よりよく
似たり。此外産物は奉書
紙鳥の子紙や雲紙や奉
書紬より墨流石谷切石
雲母鱒鱈是は頗る佳
品なり

第三加賀は越前の。北東
なる濱つゞき。南は飛騨と
山界の雲に聳ゆる白山は
越前飛騨と越中に跨
がる峯より消果る時し
知らぬ白妙の深雪へ

えきゝゐる根なれ。東そて
越中之とぞ。又山おほき
北はれ小早。能登より隣るま
の國成の海濱すべて魚塩
乃地越前界り蓮ゞの浦。
落入る川を菅生川。北はれ

水上の山中や。また山代は
温泉あり。湯あまねく客ぞ
入つま集ふ。安宅の川は川
口そ深く入込み入江なるを。
北はれ北のてこ手取川。當
小田はれ大川あくゝみかふ

白山よりも落る水。越後川の外本吉まで出る一圓管轄の石川縣廰あれば所なり。犀川浅野川。川の間に金澤の市街は北國第一なり。繁昌地と稱せ。たゞ之帯る。浅野川は川下なる。内灘村の潟にいて。川の水落ちて。湖となる越中は北より東まで能登の界なる。當國一圓人口を。二十九万六千餘。

地冷やかなり風つよく。越なる
よる里まで雪落しきまでる
民俗温和にて。本を守りて
て拙けれおまる。求る心なき
風あり。さて産物は撰
糸や。羽二重加賀絹杉原

紙。奉書紙や菅笠や。白山
硫黄浅野餅。
第四は能登なる一國にて。加
賀越中の間にて。北へさし
出し大岬。廻りて三方みる
濱辺。國中。山あり川ひのまど

極て狭き土地にして。東
は海湾にて廣く。其中
程に半嶋あり。地峡僅
に相通ず。又南手に
海岸の七尾は無類
の一港。當國一圓接まて

まし。越中の國射水なる。
郡を加へ支配する。七尾
縣廳を立置てある。北なる
端なる珠洲岬。岬を廻るまで
西の方。沖なる一面能登は
海。長閑なり霞む春の日の。

浪間より見ゆる七島や。
能登の島山。神の浦。親の
湊を舟出しく濱を傳ふ
て南向小嶋の間をとるさき
行あふぎ。阿武屋。福浦より
ぎてむしく。南に今濱一の

宮。越と越ぬ間に入江なきし。
此一国の人口は一十六万七千
余。土地冷り風烈しく。人
氣も狭く小しと我ぞ。其の
産物は織絹布。和嶋塗
物は素麺や。刺鯖。熊胆。烏賊

黒漬。
北五の國は越中にて西は
加賀・能登・南は飛騨・東は
信濃・北はおほきつぎは越後なり
隣るは北の海。國は界は
みな山岳西より石動二

國山。久利伽羅岳や源氏
峯。黒坂山より礪波山南は
中に國見坂。東は朝日・
佛岳剣・浄土の間より煙
たなびく立山や地獄の
燃立つ火山なり。川は飛

溪よりも落ち来る逆巻波の神通川國の央を貫く。流れて入るゝ布施の海。其の川口は富山なり。其新川郡の廳を置て。其は管轄する處は。礪波や婦負と新川の。三郡なるぞ射水なれ。西は残の一郡を能登の七尾の支配なり。神通川を中に置き川にかける舟橋の。西も東も土地の形状第に廣く見えての景多く。

蝴蝶の羽根を開きたる。形ありさまもよく似たり。西な
る羽根より中田川。またた川
え隣國は飛騨より流れ
来る水。其は川口の濱辺に
在る吉國府湊今ぞなる。

名のみ有礒の名湖が海。
東に布施川いろは川。其の
水源は立山の熱水雪と
解けて流れ。みなぎる落る
早瀬にて。橋なる棧橋愛本
ばし。其外北の方。堺川。越後

の國との界なり。東の羽根より西の方能登との間なる大灣あり。總名富山乃海といふ。一國すべて人口およそ三十四萬五千余。風土は寒く雪おほく。五穀實りまたよく熟す。山に漆あり海に魚。人氣は智あり勇あまりて陰氣の所ありて佞おほし。其の產物は八講布。白川糸や絹物や鹽硝。黃連。反魂丹。亀谷鉛。鰤。熊膽。

東六番は越後の國。北陸道の最大國。越中地より引續き細く長く後へ延び止り。は羽前まで。乾は一圓岸うつ浪。沖はあなたに佐渡の嶋。南東に信濃地と

上野岩代に山界。山ふかき一面に國内山岳嶮しく。大河小川數しげく。越中界に槁立山黒姫山や外波山。の名ある海岸には無双の難所親不知又も知れぬ次は駒返過

まづ青海川の口。是は東なる姫川まで。信濃の山より落る川。川は東に名字岳。信濃の界の焼山まで四時に火烟は絶ることなく。妙高山も。火山なり。是れの外赤倉不動山

信濃の野尻沼より水。流れ
無く冥川乃。掛れ川筋を
信濃道下を川口直江浦。
蒲より見る中る米山の。東を
八石黒姫山掛れ小の方海
濱り。立てる町を　柏崎

越後は七郡其中の南乃五郡を支配する。柏崎縣廳ありて。八石山の南なる天水山や菱が岳白鳥山とれは山間あり。信濃の方より流れ合ふ川ぞ所謂信濃川。三大河

中の其一つ。夫より北へ流通して。大小数川加はるまで。海へ落ち込む川口は。外國人との交易場。是ぞ新潟の大港。河舟にまじる海舟も。日夜出入は小絶なく。市街

乃繁栄驚し。落り新潟
新發田は。當國北は二郡なる。
蒲原岩船を支配せり。其
後より鳥屋潟。阿賀の流や
福島潟。水上遠く岩代に。
國より落る會津川。二國

峠は當國と。信濃上野
三國の間にあり。あまねく東道へ。
往来も繁き山の道。近海
道ともある是ぞかし。抑もき
はる太古まて。火山乃孫は
多く焼きてる。雨数しより焔のもえ

出づる。火井といへる井戸
あり。又臭水なる油地より
沸出る油あり。即ち世に
いふ石炭油。用ゐて照す夜
の闇。造化の妙工を顕し。
其人口は大都にて一百九万

二千余。氣候は寒冷雪つも
り。人氣は極めて負をしみ。
強き事道し氣象あり。其
産物は絹布類晒縮や蝋燭
り漆臭水油鉛あり。
第七佐渡は越後より。北

嵩まで十八里。能登の珠
洲より三千五里風濤の
より北海の。沖に立つる
嶋乃は。周廻凡五千余里。
東と西とは広くして中は
南と北の方双方海湾入込て。

狭くなりてくびれのしてまで称。
よく開けたる平地なけれ、
北の湾小さき湊町にぎはふ
町あり湖あり。南の湾ありて
東西は。重畳したる山岳
より落来る清水左右より。

集まりて入る國府川と云
町に御流して。西へ廻りて
相川や。當國にて繁昌の地。
全國三郡管轄の相川
縣廳こゝにあり。山は此地
千石を得しより東の金

山西より。金北檀特上杯
山。金北山の西南相川より
北東。鑛山あまた堀出せし
是より世につゞく佐渡の金、
金銀の量。今もなほ昔に
かはらずと夥し。楼も此地は

承久の昔順徳天皇の逆
臣北條義時に遷され玉
ひし所なり。今ハ真野
御陵あり一國人口九万余
土地ハ草木他に繁生。
五穀牛馬もいと多く風

土ハ雪と風烈しく人氣ハ
狭く頑固なり。其産物ハ
金と銀。小鯣弦藻細辛
と知べし。

瓜生氏日本國畫盡卷五 終